

「ふくいふるさと学びの森」ゾーニング計画

山登りエリア

尾根沿いに頂上を目指す歩道を整備し、山登りを体験。頂上では、三方五湖を望む景色が楽しめる。

モニタリングエリア

現況の植生および獣害の影響などをモニタリングし、里山林管理に役立てるデータを収集する。

資源活用エリア

杉林などでの間伐体験を実施し、薪利用や炭焼きなどによる里山資源の活用を行う。

植生管理エリア

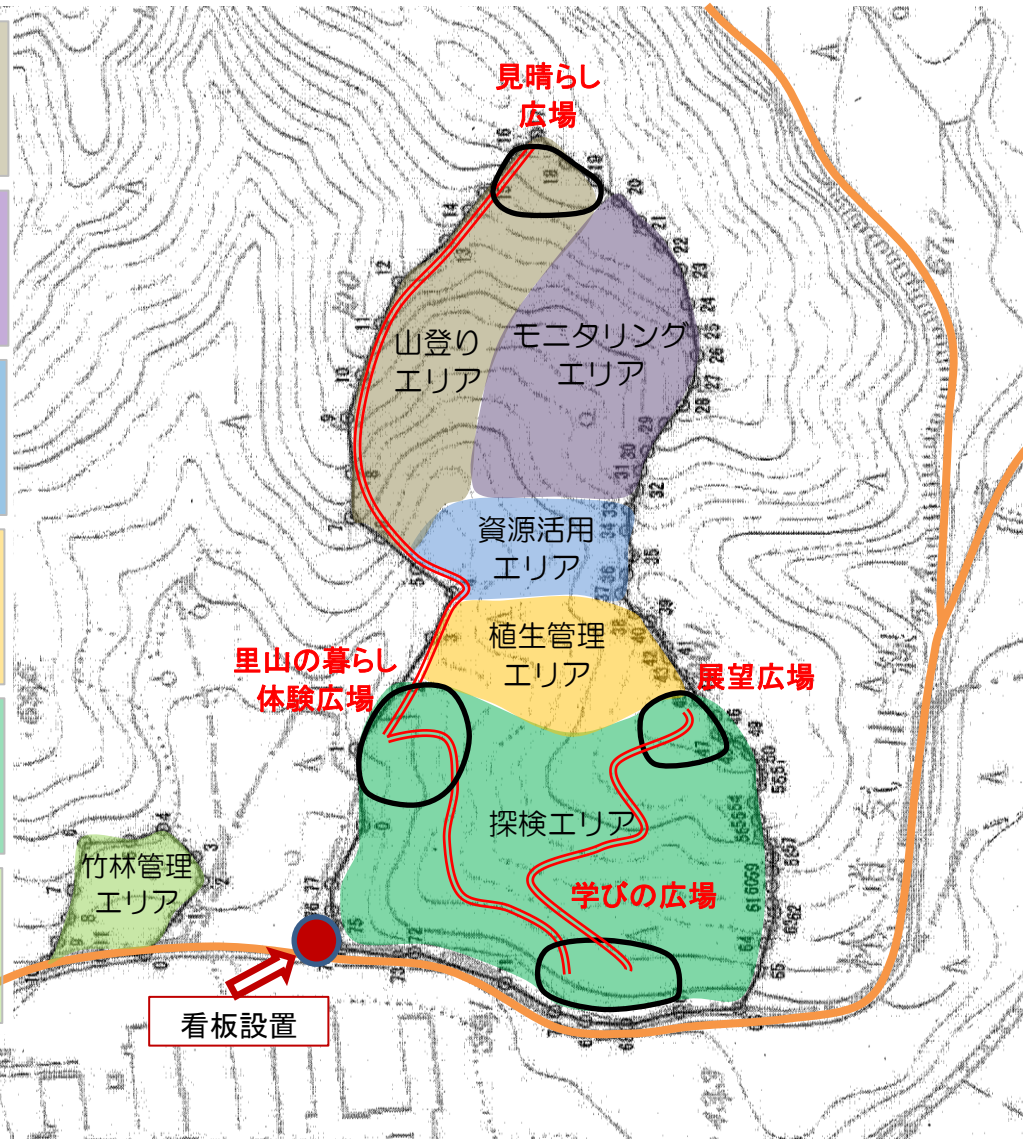
植生がなく荒れたエリアへのどんぐりの苗の植樹や、老木の伐採による萌芽更新により、雑木林の若返りを図る。

探検エリア

歩道の整備や、草刈りなどによる管理を行い、子どもたちが気軽な里山遊びを行える場所を整備する。

竹林管理エリア

古い竹の伐採などによる竹林の管理を行う。伐採竹は、竹炭や竹チップ、クラフトなどの体験活動に活用する。



見晴らし広場

山登り体験者が頂上でくつろぎ、三方五湖を眺望する広場。ベンチの整備や、木の伐採等による見晴らしの確保を行う。

里山の暮らし体験広場

炭焼きや薪割り、食体験など様々な里山の暮らしの体験活動を行う広場。付近の赤土を利用した炭焼き窯や、間伐材を利用した四阿などを整備する。

展望広場

山の中腹から三方五湖を眺望できる広場。ベンチの整備や、木の伐採等による見晴らしの確保を行う。

学びの広場

雑木林の木陰の中で、里山の課題などについて講義を行う広場。幼児を集めた「森のようちえん」を行うフィールドとしても整備する。

看板設置